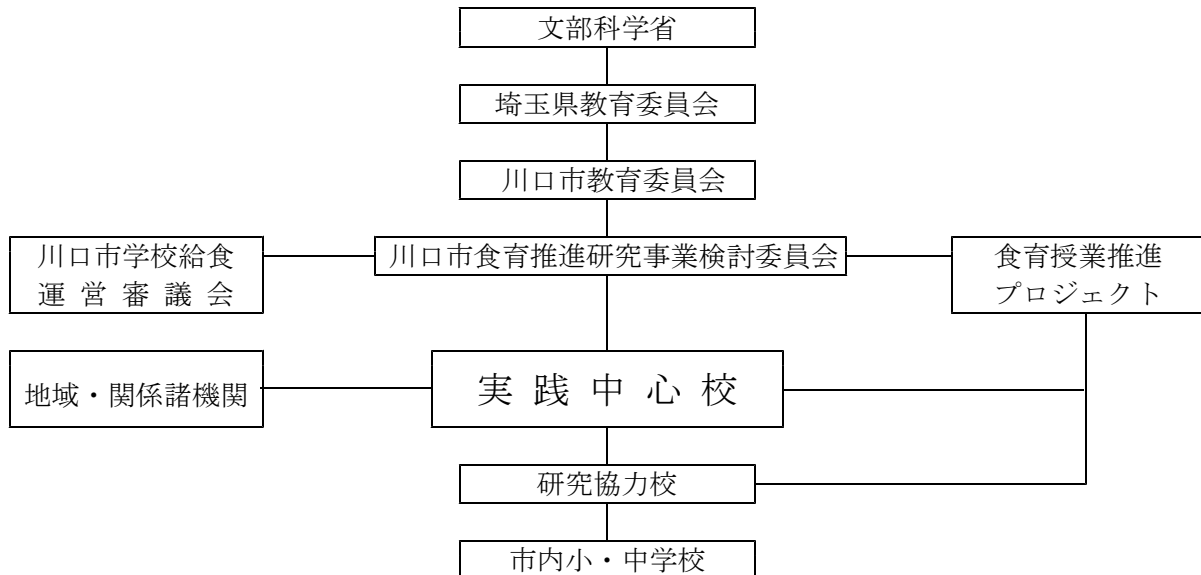


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	埼 玉 県
推進地域名	川 口 市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	栄養教諭がコーディネーターとして行う、教科等における「食」に関する指導のあり方	
1	学級担任と栄養教諭との連携による効果的な指導のあり方 食育を学校の教育活動の中で計画的・継続的に推進していくために、教科等との関連を明らかにし、授業の中で食に関する指導を行った。	
	【1年】学級活動『きゅうしょく だいすき！ しょっかん からっぽ だいさくせん！』  栄養士や調理員の給食に込められた思いを知り、残さず食べようという意識を高める。	【2年】道徳『きつねとぶどう』 導入で、日頃自分たちの生活を支えてくれている人達の話聞き、価値への方向付けを図る。 
	【3年】学級活動『めざせ！元気もりもりマン』  黄・赤・緑の食品の栄養のはたらきを理解し、バランスのよい食事をとろうとする態度を育てる。	【4年】国語『「かむ」ことの力』  導入で、日頃の給食活動と教材文を関連させ、「かむ」ことの効果や大切さについて理解を深めるとともに、発展学習として標語を作り、学んだことを学校全体に呼びかけながら生活への意識を高める。

【5年】社会『これからの食料生産』

【6年】家庭科『まかせてね！きょうのごはん』



食料の輸入や食料自給率の問題を考え、これからの日本の食料生産のあり方を考える。

栄養バランスや量に気をつけ、地産地消や旬の食材等を考慮した献立をたて、食べる人が喜ぶお弁当づくりをする。



各教科等における食に関する指導授業実践(*は研究発表会での公開授業)

国語	3年	すがたをかえる大豆*	道徳	1年	お父さんのカレーライス*
	4年	かむことの力		2年	きつねとぶどう
社会	4年	県内の農業の様子*	学級活動	6年	食べ残されたえびになみだ
	5年	これからの食料生産		1年	きゅうしょく だいすき！
家庭科	6年	まかせてね！きょうのごはん			しょくかん からっぽ だいさくせん
体育 (保健)	4年	育ちゆくからだとわたし		1年	めざせ！おはし めいじん！
	6年	病気の予防*		2年	すききらいしないで食べよう*
総合	5年	日本のよさを伝えよう*		3年	めざせ！ごはんで元気もりもりマン ～もっとしっかりえいようをとるためには～

2 体験活動を通した食育の実践

地域生産者の方を招いて土づくりから始め、種まきと苗植えを行った。各学年で野菜を育てるとともに、6年生は、一人一鉢で野菜を育てた。

- ・1年「菜花」 ・2年「ほうれん草・小松菜・春菊・にんじん・ラディシュ・かぶ 等」
- ・3年「小松菜」 ・4年「ブロッコリー」 ・5年「麦」 ・6年「大根」

収穫した野菜を給食で食べたり、自分で育てた野菜を調理実習の食材として使ったりするなど、生産の喜びやたいへんさを感じながら、食に対する意識が高まった。



3 掲示を活用した『食育』指導

食に関する掲示を充実させることにより、食に対する意識の向上を図った。

【啓発を図る掲示】



『食育の木』
給食指導時等に
全学級で活用



学年や各教室の掲示コーナー

【活動を振り返る掲示】



【ランチルームの掲示】



テーマ2 栄養教諭が核となり、学校・家庭・地域が「絆」を深める食育の推進のあり方

1 『わくわくクッキング』（親子料理教室）

夏季休業中に実施。小中連携として、中学校生徒も一緒に調理した。さらに、市内栄養教諭との連携を図り、「バランスのよい朝ごはん」づくりに親子で挑戦したあと、ランチルームで会食した。



2 家庭科授業における地域人材の活用

家庭科の授業で「お弁当づくり」を実施。地域で料理店を営む方を招き、料理の話を聞いたりプロの技を見せてもらったりしながら料理への関心を高めた。また、実習では、「地産地消」を意識し、栄養のバランスを考えたオリジナル弁当をつくった。



3 食育インフォメーションの発行

食育インフォメーションを毎月発行。ホームページに掲載し、地域の方に広く取り組みを知ってもらう。また、昇降口に掲示コーナーを設置し、来校者に食育の取組を紹介している。



4 好ましい人間関係をつくる交流給食の実施

- なかよし給食（異学年ペア学級）
- 感謝の集い招待給食（あおぎりボランティア）
- 全校通学班給食
- 1年親子会食
- 6年親子会食
- 3年地域敬老給食会



5 個別指導

(1) 食物アレルギー対応

年度当初、管理職・学級担任・養護教諭・栄養教諭・保護者と確認の上、除去食に対応した。
また、学校医との連携を図った。

(2) 「スクスク教室」

肥満度20%以上の児童を対象に実施した。

〔内容〕肥満と生活習慣の話（養護教諭）
おやつや清涼飲料水の話（栄養教諭）
室内でできる簡単な運動の紹介（体育主任）



6 『食育2010!』（学校保健委員会） ※小中連携校生徒・教職員、市内栄養教諭参加



〈第1部〉(1) 児童発表 『食育の日と郷土料理について』

『排便について』

(2) 6年生『お弁当の日』の取組について

地域の方や栄養教諭と連携しながら自分でつくった
お弁当を紹介した（プレゼン）

〈第2部〉(1) パネルディスカッション

『バランスのよい朝食の取組について』

(2) 食に関するアンケートの結果について（実践中心校）

(3) 保健室利用児童の朝食の調査結果について

(4) 食に関するアンケートの結果について（研究協力校）

(5) 学校・家庭・地域の連携による
バランスのよい朝食の取組について

(6) 子ども自らが考えるバランスのよい朝食の取組について

(7) 『バランスのよい朝食の取組』についてのグループディス
カッション



テーマ1～2に共通する具体的計画

1 食に関する指導全体計画・年間指導計画の見直しと作成を行う。

教科等の指導内容と食育の関連を明らかにし、食育のねらいを踏まえた指導を展開していくこ
とで、児童生徒の食に対する意識を高めていった。

2 研究校の視察や授業研究会に積極的に参加し、先進校の実践を取り入れていく。

〈先進校視察の結果〉

平成22年 5月 さいたま市立日進北小学校 10名参加

平成22年10月 さいたま市立大久保小学校 6名参加

平成22年11月 さいたま市立宮原小学校 2名参加

上尾市立東小学校 8名参加

戸田市立戸田東小学校 6名参加

5月に、平成20・21年度さいたま市研究委嘱を受け食育を中心に研究を行ってきた日進北
小学校を視察し、研究の概要、教科等授業の中での食育の進め方や具体的な指導方法等について
学んだ。研究の構想や栄養教諭の役割、全体計画・年間指導計画の作成、家庭や地域との連携等
多くのことが、研究を推進していく上での指針となった。

10・11月は、食育を中心に研究を行っている研究校の研究発表会に参加し、授業実践、校
内掲示、さらに、研究発表会の進行等を視察した。複数の学校に多くの教職員が参加したこと
により、いろいろな実践にふれることができ、研究の成果と課題を教職員で共有することができた。

3 食に関するアンケート調査（6月、11月）を実施し、朝食摂取状況及び内容について実態と意識を把握し、実態に即した指導や家庭への啓発を行っていく。

〈アンケートの集計により、見えてきた傾向〉

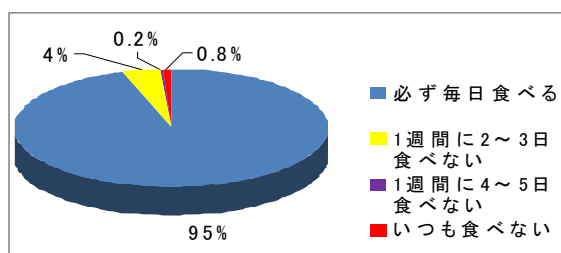
- ・小学校、中学校ともに、朝食を毎日食べている児童生徒は安定している。（小 95%、中 85%）
- ・中学校で、朝食を「いつも食べない」生徒の割合は、学年が進むにつれ多くなる傾向が見られたが、「4～5日食べない」が減り（3.5%→2.7%）、「2～3日食べない」が増えた（7.6%→8.9%）ことは、朝食をきちんと食べようと意識する生徒が増えたためと考えられる。
- ・小学校で、「1品のみ」が減少し、「3品そろった」朝食を食べる児童の割合が増えた。

4 学校公開において、「食に関する指導」の授業や給食参観を行い、保護者や地域の方の食に対する関心を高めるとともに、親子料理教室や交流給食など参加型の活動を進めていく。

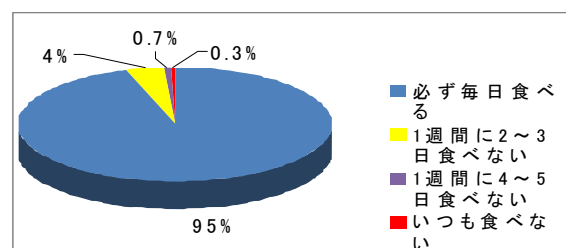
数字で変化のあった事項について（小学校アンケートの結果から）

朝食を食べますか

【6月】

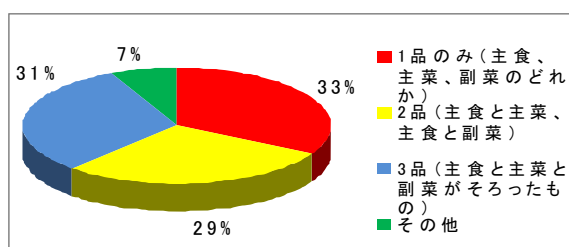


【11月】

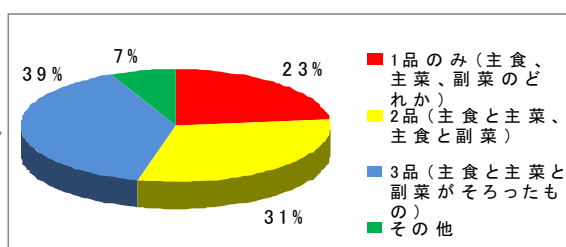


朝食の内容

【6月】



【11月】



6月と11月に行ったアンケートでは、いつも朝食を食べない児童の割合が0.8%から0.3%に減少し、主食、主菜、副菜のそろった朝食を摂っている児童が31%から39%に増加した。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 食に関する指導の全体計画及び年間指導計画を見直し、教科等指導の中に食に関する指導を位置付けることにより、年間を通し、継続的に食に関する指導を行えた。
- 食を通して、小学校と中学校の交流の場が持てた。
- 地域人材を活用することにより、地域の方との絆が深まった。特に学校ファームでは、地域生産者の指導や助言のもとで野菜を育てられ、多くの野菜が収穫できた。また、収穫した野菜を給食の食材に使うなど、収穫の喜びを味わうことができた。
- わくわくクッキングや学校保健委員会、食育インフォメーション等を通して家庭や地域との連携が図れ、保護者等の食に対する意識を高めることができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 児童生徒が望ましい食習慣を身に付けるために、一人一人の課題に応じた指導のあり方を研究していくとともに、指導と評価及び効果の検証方法の工夫をさらに行っていく。
- 研究の成果を市内小中学校に広げ、栄養教諭や学校栄養職員未配置校においても、栄養教諭等と連携しながら、充実した食育を進めていくための体制を整備していく。
- 引き続き家庭・地域に啓発をしていくことで、食に対する意識をさらに高め、学校と家庭・地域が連携しながら児童生徒の望ましい食習慣等を形成していく。